

7 土石流から街を守る駒ヶ岳の治山事業

しかべ ななえ
北海道（森町・鹿部町・七飯町）

昭和4年6月17日の大噴火



荒廃状況（軽石流に覆われた林地・農地）



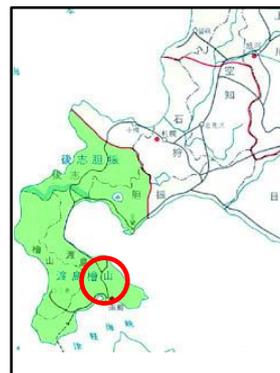
火山堆積物の流出状況



現在の駒ヶ岳



駒ヶ岳地区山地災害
情報システム



火山堆積物の流出を防ぐ
治山ダム群（平成24年）

○所在場所 北海道茅部郡森町・鹿部町・亀田郡七飯町

○施設・工法の概要

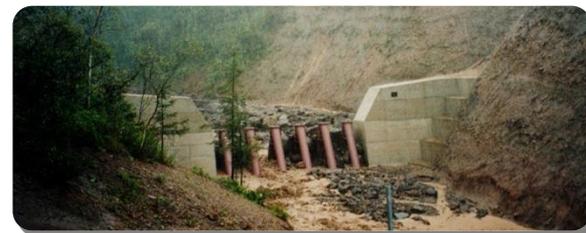
土石流対策として谷止工（51基）、床固工（283基）、スリットダム（8基）を配置
次期噴火に備え監視カメラ・土石流センサー等の観測施設を設置

○解説

北海道駒ヶ岳は、有史以来噴火を繰り返してきました。

昭和40年代から治山事業を実施してきましたが、次期の火山活動または融雪等に伴う土石流の発生が強く懸念されたことから、平成4年度より総合的な山地災害危険地対策を行う火山地域防災機能強化総合治山事業を実施しています。

また、昭和38年から防風林造成事業を開始、昭和46年からは防風林帯の間を緑化すべく保安林改良事業を展開し、現在、立派な森林帯が形成され、安心して暮らせる地域住民の生活や農作物の生産の向上に寄与しています。



土石流を防ぐスリットダム
（平成10年）